



時事評論家 増田俊男

新型コロナウイルスは「騙る平家」への天罰か、それとも？

私は、「人間社会に偶然はない！」と言い、「偶然は後で必然であったことが分かる」と述べてきた。日本が誇るノーベル受賞生物細菌学者本庶佑博士その他多くの専門学者が証明している通り「新型コロナウイルスは遺伝子組換え人工細菌」であった。世界中の人の命を奪い、経済を疲弊させている「新型コロナウイルスは細菌兵器である」ことは明らか！では殺人細菌兵器を造り、世界中に蔓延させた「犯人」は誰か？アメリカは新型コロナが武漢から発症したことから中国犯人説を公言し、中国は武漢で開催された武漢ワールドミリタリーゲーム(2019年10月28日)に来たアメリカで新型コロナに感染したアメリカの軍人が発症源だと主張する。

アメリカは同年9月17日ジョン・ホプキンス大学で、アメリカの大都市で新型コロナウイルスが発生した場合を想定したシミュレーションを軍、政府、学者が共同で行っている。同月28日中国政府は武漢空港で、コロナウイルスが海外から持ち込まれたクラスターを想定したシミュレーション訓練を行った。

アメリカと中国が想定した通りアメリカでも中国でも新型コロナの感染が広まり死者を出している。2020年5月13日現在、人口15億人の新型コロナ中国死者数は約4,700人、既に中国は終息宣言。一方中国の5分の1の人口3億人のアメリカは死亡者数82,000人以上で中国の17倍、人口比で計算すれば85倍！中国政府発表は必ずしも正しくないとしても、米中の差は歴然である。

2019年9月から10月にかけて武漢ワールドミリタリーゲーム(軍人オリンピック)に参加した約300名の米軍人と観光客を合わせても武漢に居たアメリカ人は1,000人足らず。一方5万人を超える同ゲームの観戦者の内約4万人は中国人であった。(武漢における感染可能者数アメリカ1,000人、中国4万人)

何故世界の人々は「新型コロナの発症・感染源は武漢」と断定し、信じるのか。

感染者数が感染源の数と規模を表すのは当然のこと！

世界の全感染者数420万人中30%を占めるアメリカ140万人の感染源がアメリカ以外の一体何処にあると言うのだろうか。

また犯人は何故新型コロナ感染源をアメリカに集中させたのだろうか。

「小冊子」Vol.116で、「新型コロナウイルスの発症地、タイミング、感染力、殺傷力、そして「革命力」、はあまりにも出来過ぎだと思いませんか？」について述べるが、「出来過ぎ」とは、当時世界中から人が集まった時と場所(武漢)で新型コロナが発症したことを言っているのではなく、(犯人の)「真実隠しの見事さ」を言っているのである。

セプテンバー・イレブン(9/11/2001)のWTCビル崩壊シーンでパニックになっている時ライフル銃を持ったビン・ラーディン(アルカイダ)が何度も現れ、「こいつが犯人だ」と言われると「そうだそうだ」と信じてしまう。

(私は事件一週間前からNYのビル解体業者を調べていた)

9/11の目的(中東戦争)が達成されたら犯人など誰でもいい。9/11の真実を知らなかった人はアクションドラマを何度も見せられただけで一銭も儲けからなかったが真実を知っていた人は航空機会社に空売りを掛け巨万の富を得た。(42ドルのユナイテッド・エアーは17ドルに下がった)

だから「新型コロナウイルスの真実」を知ることはまんざら悪いことではない。

エリートにすれば世界恐慌も「災い転じて福となす」である。

その秘訣はすべて「小冊子」Vol.116にあり！